

バストス週報

潮 35

第1529号
昭和五十一年
八月三十日
月曜日発行
Director
Koiti Mori
Redator
Shoho
Miyatake
Rua 10 de
November 882
C. Post. 112
Fone; 340
BASTOS
E. S. P.
Anual
Cr. #
85.00
前金 Adiant.

共産党客観



○現在世界中には共産国が多いが、非共産国が多いか、はつきりしたことはわからないが、ひよつとしたら共産国が幾分多いのではなからうか。南米で共産党を公党として認めない国はブラジル・チリ・アルゼンチンなどかと思ふが、他の国々では時々赤色政権が出没するので、或いは公党となっているのかも知れぬ。

中米のキューバなどは本物の共産国で、共産ぎらいは多く北米その他へ転住してしまっているから、共産一色と言ってもよいであろう。

○本物の共産国というと、どうしても軍勝をもっている、その戦力で勝ちとったものでなければならぬようだ。キューバなど小国ではあるが、カストロの革命軍が国外から攻めこんで、前政権トルフィーロを放逐したじま。そこまでは立派と云えるが、最近アフリカに義勇士を五千から一万近くも送り、アンゴラ、その他の国へ軍支援をしたことは、ソ連の指導かも知れぬが、余りかんばしくない話のようだ。

○毛沢東の中共軍が長安に立籠って兵力を養い、日華戦争終期に大挙して長安を陥し、日本軍を迫ったのみならず、蒋介石軍と戦って、台湾へ進いこめてしまった。以来中共軍は全国中を支配し、新しい共産政治を実施して自覚しい発展を遂げたが、周恩来首相の逝去と、毛沢東の老衰によって後継者をのぐる争鬪戦が起るかも知れぬ情勢にあるというから、共産党の政変にも割り切れぬものを伴うようである。

○ソ連は共産国の創始者だけあって、対外的にも武力、対内的にも武力、文句があつたら腕で采いと云う構えである。ソ連内には、政治的にも思想的にも一切ソ連の政治に勝を入れることが出来ない。いやな奴は、皆んな引くくって收容所へ入れてしまふ。又時には海外に追放してしまふ。日本の思想犯というのもしふん、いびられたものらしいが、ソ連の収容所には幾萬一千万以上の容疑者が呻吟してゐるというから、そのすさまじさは想像できるというものだ。

ソ連の軍力にはアメリカをのぞいて世界中対抗できる国家は、おそらく一国もあるまい。中国と国境問題で、両国とも辺境に出兵しているが、専門家が見て、兵数こそ中共の方が多し、装備の点になると、とても比較にならず、戦つても中共に勝目はないだらうという。

ソ連の海軍力は、地中海はもとより、日本近海にまでその姿を現わし、傍若無人の振舞である。さう

HOTEL PRIMAVERA

Kua P. Vargas. 271. C. Post. 60 Fone, 92



御宿泊とお食事、
御給礼披露宴と御仕出しに
御家族連れのお楽しい御食事に
日本料理とブラジル料理
毎本日は当店自慢のフェジューアード
バストス名物料理

ルア プレシデンテ ヴアルガスニ七一
合良堂 プリマヴェール

ホテール森川

郵函 六〇番
電話 九二番

FLORA BASTOS
T. MORIMOTO & FILHOS LTDA
Rua Duque de Caxias 524 - F.C. Post. 171 Fone 29

森元苗木本舗

電話 二九番

生活の安定に備えて果樹園の造成を
果樹園の成功秘訣は良種の苗木を植ふこと
優良種の苗木なら農林省公認の
バストス森元苗木本舗へ
御相談下さい。親切に説明致します
蘭の新種珍種は全蘭の有名園と特約で
安価提供して居ります。只今シオオを意欲中
ましくお願ひ致します。
果樹の外庭園樹・植林用樹・花木類一般、
果樹類の味のある方はおいで下さい

カバの一掃であろう。

ソ連は国内でも農作物増収の一法として裏海の東方にオビ河エニセイ河の逆流させて灌漑し、一大農地を造成する計画だという。十年がかりの大仕事である。現存はアメリカが農産品を売ってくれるからいいが、もし戦争にでもなつたら、如何に武器を誇っても、国民を餓えさせるわけにはいかぬ、というわけだ。
○日本の共産党は、戦前は秘密結社で、歴代の政府

第48回バストス入植祭全伯親善少年野球大会経費決算表

1976年7月24日-25日

収 入	支 出
市役所 4.709,00	12ヶ組招待洋備費 2.654,00
インコルバオ 2.110,00	優勝杯其他 1.091,00
鶴 博 之 650,00	準優勝ブラシダ杯 348,00
大倉二郎 600,00	打撃賞ブラ拓杯 438,00
南米銀行 500,00	豊島杯 520,00
豊島幸幸 500,00	ナグリア、グランジャブラツル 482,00
ブラ拓製糸 438,00	南銀杯 386,00
ブラシダ 348,00	カミザ、シャベウ代 2.110,00
9.355,00	ヌットグロソケム守佐美食代 720,00
不足分 943,00	太郎田商店 141,00
10.798,00	パンノ代 26,00
	トワイ、グラバ代 200,00
	タカミ商店 300,00
	ベビーター 380,00
	シレニー(サレン) 650,00
	ホームラン、ライン箱、グロシツ 20,00
	加藤さん修理費 75,00
	マーク付集 50,00
	ブラック書賃 30,00
	花火代 120,00
	雑費 117,00
	10.798,00

少年野球部 特別会計
生 方 正 義

渡辺久子様

バストス明老会

金一封也

右は入植祭手芸展に御寄贈下さいましたありがたく御礼申し上げます。

御 礼

糸 音

から弾圧を受けて来たものが、日本が敗戦国になつたおかげで、公党として認められるに到つたが、これなどG.H.C.の政策のおかげというか、マッカーサー元帥のおかげというか、アメリカは日本を戦前のような国にしだしたくないため、日共のような将来めんどうを起す腹を日本の顔にひつつけておいたもののようなものだ。

アメリカは、自分の国には共産党を公党として容認しないでおいて、日本にはいや応なしに公認させてしまった。ひどいこともあるものだ。

○日本の共産党は、最初の総選挙で四席の国会議席を得たが、選挙毎に次第に勢力を増し、今や四十四席を獲得するに到つてゐる。

この秋のロッキード選挙では、専門家は、現状維持だといつてゐるが、五十席ぐらゐには増えるように思われる。遠い将来に於ても日共が政権を握る党に育つていくとは思われないが、国民に愛される政党となるように、看板をぬりかえてゐるから、どんな化け方をするか、見ものであろう。

AVISO de HOSPITAL de BASTOS

病院よりお知らせ

皆様御待望の

眼科専門医の

先生を迎えて眼科を開設致しております

診療日は八月二十七日(金)九月十日・二十四日の金曜日

海野勲先生

治療の外めがねの度を調べたり眼の手術もいたします。

バストス病院

各位

死亡通知並に会葬御礼

母、小野希ふ（九十歳）儀老衰のため去る八月十五日午後五時五十分永眠致しました。依って翌十六日午後三時自宅出棺バストス墓地に埋葬いたしました。此の儀生前御交誼を戴きました皆様へ謹んで御報らせ申しあげます。尚、葬儀に際しましては御多忙中の処遠路御厭しも打く態々御会葬下され、その上御鄭重なる御香料並びに御供華等を御供え下され誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。実は一々御廻礼致し拝肩の上御礼申し上げねばなりません。取込中思うにまかせず、甚だ失礼乍ら取り敢ず紙上を以って御礼申し上げます。

一九七六年 八月十九日

アルト区

喪主 小野清志
妻 菊枝

親族 孫 同
友人代表 戸東 同
安齊 成 夫

- アルト区第四組一同様
- アラプア市有志一同様
- バストス又明老会様
- バストス岡山県人会様
- 曹洞宗世話人会様
- 小野田種鶏場様
- バストス南米本願寺様
- バストス仏教婦人会様
- 一般会葬者各位様

1976年7月分 バストスの気温と降雨量 株式会社製拓製系社測候部

項目	気温	湿度	最高	最低	降水量	風向	天候	雲量
日	°C	%	°C	°C	mm			
1	12.0	87	22.0	11.0	4.7	S	☁	10
2	14.0	76	14.0	11.0	4.0	S	☁	09
3	13.0	87	14.0	8.0	7.5	W	☁	09
4	17.0	78	17.0	4.0	0.2	W	☁	02
5	18.0	59	20.5	4.0		W	☁	02
6	17.0	58	23.0	8.0		E	☁	07
7	20.0	70	21.0	12.0		E	☁	06
8	19.0	89	24.0	17.5	8.1	N	☁	10
9	19.0	100	20.0	16.5	48.3	N	☁	10
10	13.0	87	19.0	11.0	9.0	S	☁	09
11	14.0	76	14.0	10.0	0.1	E	☁	05
12	20.0	79	20.0	12.0		E	☁	05
13	22.0	71	26.0	14.0		N	☁	02
14	23.0	63	28.0	13.5		W	☁	05
15	14.0	87	27.0	12.0		W	☁	04
16	17.0	58	21.5	5.0		E	☁	
17	17.0	58	24.0	10.0		S	☁	
18	20.0	70	24.0	10.0		E	☁	
19	20.0	46	25.0	13.0		N	☁	
20	21.0	54	24.0	13.0		N	☁	
21	22.0	55	25.0	15.0		N	☁	
22	21.0	70	26.0	24.0		N	☁	
23	23.0	63	27.0	12.0		E	☁	05
24	24.0	50	28.0	16.0		N	☁	
25	24.0	50	30.0	17.0		N	☁	02
26	28.0	42	31.0	14.0		N	☁	
27	28.0	42	31.0	13.0		E	☁	
28	17.0	47	32.0	13.0		N	☁	
29	26.0	46	33.0	13.0		N	☁	02
30	26.0	46	30.0	12.0		N	☁	
31	27.0	47	31.0	11.0		N	☁	
合計	626.0	505.0	2011.7	365.5	81.9			
平均	20.1	16.2	24.2	11.7	2.6			

九月十九日及び二十日シネバストスにて
上映の超大作松竹映画鑑賞のしおり

球の荒野

松本清張氏の原作より

(3)

世田谷で殺された伊藤元中佐は、狂信的國粹主義者であつて、軍部再興を念願する國威復権会という右翼組織につらなつてゐる。この伊藤が奈良の古寺で田中孝一の署名を発見し、疑念を抱いてこれを切り取り、上京して筒井居に泊まり、村尾、瀧を訪問して手掛りを求めた。伊藤が野上の所在を突つては事態は面倒になる。そこで、門田は、野上の隠れ家に案内する、と偽り、土地不案内の伊藤をおびきだして、絞殺したのである。この事実を探知した石賀同志は門田を拉致し、伊藤の殺害された場所につれていって、殺害する。復讐である。連行される途中、門田は自動車のなかで、野上の行動を逐一詳述する。

この間に、添田は苦勞してやっと村尾の療養先の温泉宿をつきとめ、強引に面会する。村尾を襲撃したのは國威復権会の一味であつて、彼等は村尾を裏切者として憎悪してゐたのである。もっとも、警告のための狙撃だから、生命に異状はなかつた。村尾は冷やかに添田を迎えるが、対談している間に、添田が野上久美子の婚約者であることを知ると、態

度は一変する。そこで横浜のニュー・グラウンド、ホテルに瀧が居るから会いにいけ、といつて、暗に同じホテルにヴァンネードすなわち野上頭一郎もいるから、久美子をお呼びしてやれとヒントする。添田は久美子を誘つてニュー・グラウンド、ホテルにいき、瀧に会い、野上夫妻が観音崎にいてゐることを知ると、久美子だけを観音崎に急がせる。

一段と高い山の頂きに雲が動いてゐる。久美子は岩の上を注意して歩いた。浸蝕された岩は、列を成して火山岩のような孔を作つてゐた。海の水が押し寄せてきて岩と岩との間に流れ込んだ。それが怒り川のようになつて元へ逆流するのだった。壺が匍つていた。潮の匂いが強い。

久美子は、ふと、どこかで自分に注がれてゐる視線を感じた。自分の立つてゐる正面の岩ではない。そこには、若い二人が写真を撮り合つてゐる。彼女は視線を移した。黒っぽい服装をした背の高い婦人が、かなり距離に立つてゐた。今まで久美子が気が付かなかつたのは、その外国婦人が彼女のあとからその場に到着したからである。黄色い髪が明るい陽射しを受けて白い炎に見えた。

久美子はあつと思つた。京都で遇つたフランス婦人だとすくにわかつた。向うでもそれを覚つたらしい。外国人らしい身振りで大きく手を振つた。久美子は歩いた。フランス婦人の背景に燈台の建つてゐる断崖がある。崖にもさまざまな樹がおい茂

つていた。燈台に上る石段が、婦人の背中のすぐうしろにあった。この暗いまに濃い色が婦人の黄色い髪を浮き上らせていた。

「今日はお嬢さん」婦人の方から言葉を投げかけた。顔はほほに微笑がひろがっていた。青い瞳が真直ぐに久美子を見つめている。「今日は、奥さん」

久美子はフランス語で話しかけた。「京都から、いつ、こちらに回っていらっしゃいましたか」

「四、五日前です」婦人はニコニコして「幽ならびのきれいな人だった。柔らかな髪が風に吹かれて震えていた。」

「ここはお嬢さんに通おうとは思いませんでしたわ。ほんとに素敵です」

「わたしと同じですわ」

久美子は昔寺で自分の写真を撮ってくれたこの婦人の姿を思い浮べた。すると、彼女の背景に青い楓下にひろがっていたさまさまな厚い苔が鮮やかな色で見えてくるのだった。

「お嬢さんの写真は、きれいに撮れました。わたくし、大争にして、日本の最も懐かしい思い出にします」

「奥様のお役に立って、わたくしも嬉しく思います」

「フランヌ婦人は口の中で呟いた。「奇蹟ですわ」

「たしかに南禅寺でもお見かけしましたわね。苔寺のあとにはMホテルでした。そして、今日は、思いがけなく、ここであなただにお会いしました。素晴らしい奇蹟です」

婦人の趣味は、どちらかと云うと、地味に見受けられた。色彩も外国人の風習と違っていて、むしろ日本人の感覚に近い柔らかな中間色で統一されているのだった。

「お嬢さんは、ここに一人でいらしたんですか？」

婦人は久美子に話した。「はい、そうです」

「やはり、この海を見にいらしたのですか？」

「そうですね。とてもいい景色だと聞いていたのです」

「ほんとにいい景色です。京都も素敵でしたが、ここも素敵です」

婦人は青い瞳を海に向けた。拍から大きな貨物船がゆっくりと水道を上ってくるるところだった。房州の山の一部に陽が当たって、そこだけ照りを当てたように色が鮮やかになった。「わたくし、主人と一緒に来ていますの。」

士の横顔が、庭の美しさに呆れたようになっていたのだ。今でもその白い砂が眼に残っている。

久美子は、最初見たときは、その人はスペイン系の男ではないかと感じたのだが、今紳士がこちらに向いて歩いてくる顔を見ると、明らかには日本人だとわかった。日本人以外にはこんな落付いた憂鬱げな表情はしない。しかし、紳士は久美子の前に来ると、黒い眼鏡の奥からやさしい眼を投げかけた。

夫人はなぜか、久美子に夫を紹介しなかった。久美子は「お嬢さん」と呼ぶたが、

「今日は、お嬢さん」と紳士に挨拶した。「今日は、お嬢さん」、老紳士は返した。きれいな発音だった。

「フランス語がお上手ですね」、紳士は微笑しながら久美子のすぐ近くに並んだ。今まで婦人がいた場所である。夫人が何か思いついたらしく、夫に小声で話しかけた。久美子の耳にも夫人が燈台へ上って来たいのだということだとわかった。気を付けて行くがいい、と夫は妻に答えた。

「じゃあ、あとで」夫人は久美子に小さく手を振った。なぜ、あの夫人は夫だけをここに残したのだろうか。見方によっては、この夫人とは思えない無作法な行儀だった。

「海へ行きましょう」、紳士は、突然日本語で言った。「そうだ、あの岩がいい、あすこまで一しよに行ってみませんか？」、指した方向は海が白い泡を立てているところだった。

足もとには波が砕けていた。白い泡が揺れている。その部分だけ海の色が違う。透き徹るような緑色だ

FABRICA DE GRANITO
Av. Rio Branco 54. C. Post. 23. - Fone 515
ADAMANTINA S.P.

大西文吉 大西白碑工場

日本式及ブラジル式
墓 碑 記 念 碑
胸 像 石 燈 籠
石 白 ち 白

古いお墓の修理も致します
石材美術彫刻一切の製作
アマゾンチナーリオアラソコ大通り

大西文吉 郵函 二二二番
電話 五一五番

求むお手伝さん

未婚者で住み込みできる方
家事一切責任を持つてくれる方
給料 一〇〇〇〇〇ケルゼーロ又

当方家族五人(子供三人)十三才才生後三月
住所、レラマリアナ区ジュルソンチリツサ街
(元、日本病院より歩いて三分位)

甲 斐 宏 江

6
「失礼してここに掛けることにします」、無造作に腰を下ろしたものである。どっこいしょ、と自分で言った。わざと年寄りらしい磊落を見せたのだが、これはやはり日本人のしぐさなのだ。

「掛けませんか？」
老紳士はふいと顔を捻じ向けて、久美子を見上げた。黒眼鏡だが、実に人懐かしげな表情だった。
以下次号へつづく

上田つるさんの死去

去る八月十二日のパウリス新聞の死亡通知広告欄に上田つるさんの死亡通知が掲載されていた。八十八歳の夭逝を全うし眼も如く弥陀のもとに召された、とある。この広告を見て涙を流したのは私だけでなく、バストスでは随分多勢いることであらう。

バストスでは永遠に変わらない時ばかりかたをされる故人が三人ある。一人は故佐藤福太郎氏である。この人は、親方を呼ばれて、今も多くの人に懐かしがられている。私など佐藤さんの製材所で大工として働いたのは僅か二年半であつたが、友人八重樫辰巳氏や、故人となつた田中聖氏、今は聖市老境にある境井猛氏、バストスの内館君などと、昔の思い出など語り合うとき、誰の口からも佐藤さんと言う者は一人もなく、親方がどうであつた、とか、親方が亡くなつて何年になる、など、現在でも佐藤製材で働いたことのある人に親方のイメージは変わらない。今もうひとり上田平吉氏である。この人もやはり親父さんを通じている。この人はブラ拓製材の育ての親で、剛腹磊落の気性で、誰にでも親しみと尊敬された人は少ないであらうが、決して停せな晩年とは言えなかつた。

上田さんは元ブラ拓製材の工場長で勤務しながら一方個人で織物工場を経営していたが、或る事情の為、ブラ拓製と縁が切れ、織物の原料である生糸が入り出来なくなり、一時人絹糸などで織機を運転して従業員的生活を支えていたが、これも大工場とは太刀打ち出来ず、中止せざるを得なかつた。

従業員の家族達はする仕事もなく、ママエさん（上田平吉氏夫人つるさん）が工面して運んでくれる食料品で細々生活をつづけて来たが、何もせず生活の援助を受ける従業員も心苦ろしかつた。たゞあろうが、援助するママエさんの苦労は言語に尽せぬものがあった。

従業員の方でもママエさんの苦労を知っているもので、織物工場が復活する迄と、一時他に職を求めて去り行く人も少くなかつたが、この去り行く人達の為にママエさんは、従業員を残らず招ねき、ささやかな茶話会を催して送別会に替えた。工場主の上田の親父さんは、その都度声を詰まらせたが、

「君達は永年の間この上田の家族としてよく働きよく尽してくれたことに對し、只々感謝の外はない。私は、生涯君達とこうして苦楽を共にし、長

MATSUO TRATORES LTDA ADAMANTINA S.P.
A V I S A
DEMONSTRAÇÃO DE TRATORES
FORD 4.600 E 6.600 NA CIDADE DE BASTOS
DIA 28-08-76 INICIO AS 12 HORAS
Local fim da Av. Gsp. Ricardo
TERRENO CEDIDO POR SR. SHIDA
Ford トラトル 松岡商会
アダマンチーナ
来る八月二十八日（金）正午よりフォード・トラトルの耕運
実演会を催します。場所 アベニダ・リカルド、信太社地
使用トラトルは Ford 4.600 及び 6.600 です

い間には、必ず焼んでもらえる日のあることを信じて君達に苦し中を辛抱してもらつた。しかし、私に運がなかつたのか、怒力が足りなかつたのか、今日涙を吞でお別れしなければならぬが、どうか君達は今後はいい職を求め、幸せな生活に入つてもらいたい。そして、もし、いつの日か、上田平吉が再び織機を動かせる日があれば、是非若君達に力を借りなければならぬが、その時はまたバストスへ帰つて貰いたい。と、別れを惜しむ涙が頬を伝つてい

ママエさんは去りゆく人の手を取って、涙を流しながら、ひとりひとり、
「長い間苦勞かけてすまんかった。こうしておくれよ。みんな元気で停せに打っておくれ」と泣いて別れたのは、一九三六年頃であつたと思う。これが親父さん、ママエさんのバストスに於ける第一回の苦難時代であつた。

その後、ブラ拓製材からピシヨ・蘭（蘭の中）で働いて死んで腐つたもの（？）をゆすり受け、織場の軒に麻を張り、ブラ拓製材から古くなつて捨てあつた連台（製糸の筒釜）を貰い受け、十釜ほど従業員の間で分ちながら糸をひく、その間にアルト区の百アルケールの土地に桑苗を差し、これを育て、養蚕を始め、その僅かな産物から糸を作り、その糸で織物（羽二重）を始めようという、気の遠くなるような長い企画だつたが、親父さんも長男の栄吉氏も、以下静二氏、剛平氏、平八氏、従業員の青年達も、早朝から暗く打るまで、日曜も祭日もなく、真黒に陽焼けては働き続けた。別れの農業に苦しみ乍ら、誰の頼も希望に

輝いていた。その頃から生糸の値段も良なり、従って繭の値上りから養蚕景氣を呼び、上田工場でも或るブラジル人との共営商會として活気づき、工場の新築、製糸の拡張、蚕種部設置などで、親父さんも又ママエさんも愁眉をひらくようになった。

新しい工場が建ち並び、繭の買入場、乾繭場、繰糸部、蚕種部、製織部と目覚ましい飛躍を遂げつつあったが、親父さんとママエさんは旧態依然として板屋根の土壁の落ちかけた部屋に起居していた。事業が順調に進み、工場が忙しくなるにつれて、ママエさんも忙しくなった。十数名の炊事と掃除、洗濯は嫁さんと二人で文中を扱うでなく、寒い季節になると、ハジメノ！

その時、一人好さん（須磨子さん）の重病、死亡、むす子同然であった河井氏の重病で、その看病に疲れを休む暇とこなかった。

終戦と同時に生糸値の暴落で、全伯の製工場の殆んどが倒産した。わが上田工場も例外ではなかった。工場を閉鎖して一家はインダイヤツバへ移って行く事になったが、移転の日が来た。土間に焚火をして別れを惜んだが、鈴木マツノさん、福龍すえりさんをはじめ、ブラ拓時代の従業員も多数集って来たが、

「みんな泣くな。おれがまた戻って来る日を待って」と、反対に親父さんに慰められた。インダイヤツバに移った親父さんは悶々として樂しまず、健康をいりろしく書レ、二三年の後失意の涙みまがった。ママエさんも看病疲れで、目立って老けたといことであつた。

数年前から生糸の値段上昇して、パラナ州でも養蚕が盛になり、ありうらうらに製糸工場が建設されはじめた。

上田英吉氏はこの機に乗じて工場再建を志して奔走中自動車事故で、重傷を負い、生命はとりとめたが、回復は遅々として進まず、療養の期間中に、あたら製糸の好況期を逸してしまつた。

しかし、英吉氏は繭と糸の中に生れ、繭の中で育つた純粋の生糸の人だ。心ず首日の上田工場を再現されることは疑う余地もないが、この日も待たず、われらのママエさん、上田つる女は弥陀仏のまます浄土へ召された。

勝 甫

御 礼

金 一封也

右は御母堂さんの御不幸の際香奠返しとして御寄附戴きました。有難うございました。

バストス北海道夕人會

高田ワルテル英雄様

御 礼

金 一封也

右は御母堂故小野希ふ様御他界の際香奠返しとして当区へ御寄附下さいました。厚く御礼申し上げます。

アルト 区

小野 清志 様

Para Prefeito
TAKEO KIMURA
 Vice-Prefeito
PAULO KATO

ARENA 2 "Dedicação e Dinamismo" ARENA 2

御 礼

金 一封也

右は御持志を以て、当会に御寄附賜わり誠に有難く厚く御礼申し上げます。

バストス朋老會

渡辺ヒサ子様

生長の家九月の行事

一日(水)白鳩会・若鳩部・壮年部の集い午前九時
 講師 中 濱 三 司 小 倉 杉 夫
 テーマ・一、家庭の調和ニ、小供の教育
 三、終末への道。
 五日(日)ブラジル国発展と世界平和の祈り、
 マリリア市 午前九時
 七日(火)一夜見真会 ツパン市 午後七時半
 十二日(日)誌友会(供養会)正午十二より一時迄。
 講演会 長沢信二先生 午後一時より三時まで
 十七日(金)壮年の部の集い ツパン市
 十八日(土)青年会月例会 午後八時
 十九日(日)合同役員会 午後七時半
 二十五日(金)二十六日(日)婦人練成会 アグマンチーナ
 二十六日(日)伝導者勉強会 協議会 ツパン 午前九時
 二十七日(月)夜の誌友会 午後七時半

おしらせ

生長の家の年中行事の一つとなりました第八回「ブラジル国発展と世界平和の祈り」を来る九月五日の愛国週間に全伯一斉に捧げます。
 パウリス夕第一連合会第一支部ではマリリア市役所の御協力によって、多数名氏の参列のもとに、パンダ、ミリッタールが参加して、同市市役所前広場に於いて、市民も参加して、盛大に挙行されます。
 来る九月五日 マリリア市
 第八回「ブラジル国発展と世界平和の祈り」
 主催 生長の家パ第一連合会第一支部
 後援 相白青パウリス夕第一連合会
 バストスは生長の家会館前より、オニバス、ピアソン、バストスが出ます(無料)十二時迄には帰ります。お弁当は要りません。是非御参加下さい。
 出発 午前七時

講演会期日変更お知らせ

長沢信二先生の講演会が又左記の通り
 ○九月十二日(日)午後一時に変更されました。
 誌友会が終ると同時に始めます。

生長の家バストス誌友会

御礼

去る八月二十一日「演劇の夕」を催しました節左の方々より御花をいただきました。
 尚、役者諸氏及び劇団に下さいましたお花はそれぞれ御渡ししておきましたから御承知下さい。

バストス明老会

- 星 島 様 小澤養鶏場 様
- 佐 野 等 様 梶山米子 様
- 福 森 照 男 様 宮沢半重 様
- 堤 栄 吉 様 渡辺俊雄 様
- ふくめん士 様 生丹澤 様
- 宮武勝南 様 安達忠之助 様
- 谷口秋子 様 小茂田光明 様
- 川頭まり子 様 原田セイ子 様
- 真野四郎 様 柳浦龍太郎 様
- 上村大八郎 様 浅砂子 様
- 上山明彦 様

おしらせ

予告 来る十月三日(日)午後八時より
 バストス 総合会館に於いて

明老会のご自慢を

催す予定です。

出演希望の方は

○九月二十六日までに
 ○島本寫真館へ御申入み
 下さい。

主催 バストス明老会
 後援 バストス白伯文化協会

花の御礼

ハストス演劇研究会
並に役者一同

去る八月二十一日夜、明老会の御希望により、私達の未熟な芝居を再度綜合会館で上演いたしました。又々左記の方々より御花を頂戴いたしました。紙上を借りて厚く御礼申し上げます。

- 八重櫻辰見 様 筒井 節 様
- 宮武勝南 様 岡村とみ子 様
- 豊島重幸 様 荒木良子 様
- 吉田与三吉 様 水口末野 様
- 小澤養鶏場 様 前山義雄 様
- 萩原宅治 様 梶山つや子 様
- 京野万次郎 様 上西泰治 様
- ホテル宇佐美 様 杉フデノ 様
- 早川栄松 様 上村英雄 様
- 新谷文治 様 高橋マサ子 様

花の御礼

演劇研究会 島本 進

芝居(恩愛双葉峠)を再上演いたしました。御花を頂きまして誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

谷口 秋子 様

綜合会館九月の使用日程表

- 四日 州立中学校同生バイレー サロン
 - 六日 文化協会理事会 会議室
 - 十二日 結婚披露宴 山田家 サロン
 - 十三日 中央区役員会 会議室
 - 十八日 バストス音楽部 サロン
 - 二十五日 ラザードテオリベラ サロン
- 以上

バストス日伯文化協会広報部

花の御礼

宮武勝南

入植祭の演劇の際左の方よりの御花厚く御礼申し上げます。
川辺イサノ 様

開拓館記念の十句

一文銭移民の墓に三石コント
五十年の長軍戦果子宝一タース
柳ゴリリ移民の貞節の玉手箱
見捨てるは古釘一本史料の宝
鐘太鼓探した史料古草履
焼跡に史料失い火事見舞
物心三つ大投資未来に備える開拓館
応き笑い史料守りし足の豆
化粧廻し晴姿襦袢史料の土俵入り
世紀に遺す大偉業飾れハストス開拓館
海野生

明老会主催の演劇の夕

芝居 恩愛双葉峠 大好評

去る八月二十一日夜會館に於いて明老会主催の演劇の夕は、えらい好評であった。当夜は殊の外寒気が厳しく、入場者が少ないのではないかと察していたが、入植祭の折りの好評が人気を呼んだか、相当入りであった。役者連中の熱演で、見物人は寒さを忘れたか、最後まで席を立つ者はなく、中には涙を流している客もあつた大受けだった。

芝居は上出来だが、舞台が粗末だ。いやお粗末すぎる。今少し良い舞台を作ってもう一度見せて貰いたいものだ。尚当夜は友谷師匠と、光石のばあちゃんの特例奉仕舞臺があつた。和子師匠の人形のような美しい踊りと光石師匠の小道具(手拭いなど)を持たない踊り、小道具無しで首飾り新妻鏡に山田五十鈴が成功したが、今回の師匠の踊りは他に例を見ない。

ADVOCACIA MATSUBARA

Rua Oswaldo Cruz, 894, Fone 454 ou 376

Dr. Hilton Buller de Almeida (ADVOGADO)

Dr. Massahoru Matsubara (ADVOGADO E ECONOMISTA)

CIVEL-CRIMINAL-TRABALHISTA

民法・刑法・労働法 法律一般

遺産相続、不動産名義変更、売買
雇傭契約 届出 諸願書 簿記事務

松原法律相談所

金一封也 御礼

右は御子息御不幸の際香典返しとして御寄付下さいました。ありがとうございます。
高田ワルテル英雄 様

Depósito de Madeiras PARANA

Rua Tapajós, 140 - Fone 2229 - TUPÃ E.S.P.

Kaname Tamaki e Cia Ltda

Madeiras bruta e aparelhadas, portas, vitorês, lajotões colonial, formicas, telhas brasilite francesa, tintas, cimentos, compensados, curatex, ferro, tacos, venezianas de madeiras e metalicas, cal, pedras, areias, fechaduras, aglomerados, pregos, dobradiças,

建築用木材、角物、板、扉、戸口、窓枠、ガラス、ヨロイ窓木製及金属製、床板、タコ、天井板、ホルミカ、互、スレート、フランシーザ、ブラシリッテ、セメント、石灰、チンタ、ベニア板、類石、砂利、砂、釘、蝶番、錠前等、建築用材料一切取揃えてあります。

建築用材料専門店

ツパン市田巻商会

ツパン市タバーショス街140, 電話 2229番.

NOSSA RELOJOARIA

TAKAMI SHIBATA Rua Adhemar de Barros 213 Fone 154

柴田時計店

電話 一五四番

高級腕巻ホルン用壁掛時計
世界中の高級時計が揃って居ります

カラードレテレビ
グラブドールステレオ
ポルン用超小型計算機

ポルン用電子計算機は各種揃って居ります
新型電気マシジ機、蓄音機、ラジオ
写真機・シネカメラ撮影機・映写機・幻灯機
ガスライター・電気ひげとり機・メカネ
ユビワ・宝石・装身具・室内装飾品、
高級陶磁器・銀器・フックケーロ、
進物用品・記念品・おみやげ品等
常にゆづり物を入れ替えて皆様の御来
店をお待ちして居ります

アテマルデバールロス街二一三番地
レロショアリア タカミ

Aniso de Cine Pastos

八月二十九日(日) 九時半 三十日(月) 八時 監督 加藤泰
松竹 花と龍 青雲篇・仁俠超天作 田宮二郎 石坂浩二
然色 総天 愛憎篇 藤室冬三 藤間三郎 竹脚魚丸 信實美津子
香山美子
歩きはじめての男の道は止ることも止まらぬに候の道、広い世間でよく会えた四人男の意気地が揃るつ、

東映 総天 関東兄弟仁義 九月三日(金) 八時 四日(土) 九時半
北島三郎 待田京介 金子信雄 村南英雄
伊吹吾郎 板町弘子 菅原文太

監督 斎藤正一 九月五日(日) 九時半 六日(月) 八時 (五日ひる午後二時よりマチネ)
監督 岩内克己
早川雪江 新野和子 山本庄一 宇津井健
丹波哲郎 田中邦衛

東映 超特 若大将対青大将 九月十日(金) 八時 十一日(土) 九時半
加山雄三 吉沢京子
大矢茂 森るみ子
田中邦衛 酒井和歌子

東映 九月十二日(日) 九時半 十三日(月) 八時 監督 稲垣浩 岩井半四郎
鶴田浩二 久我美子 大河内伝三郎
三船敏郎 岡田茉莉子 小堀明男
乙羽信子 中村扇雀 松本幸四郎

東映 秘蔵 虎の尾を踏む男達 九月十七日(金) 八時 十八日(土) 九時半 黒澤明監督作品
大河内伝次郎 森雅之 若井半四郎
藤田進 志村喬 清川荘司
榎本健一 横尾泥海男

札幌国際オリオンピクチャー 同時上映 大船和洋九年完成、占領軍により公開延期となり昭和二十七年(九五三年)公開。アランルでは今回が初公開。